

# 再生医療産業化推進事業 計画書

2023.03.31

◆ ニーズ・課題の抽出：P2 – P31

○ 各調査結果

1. 一般市民への定量調査
2. 環境把握のためのデスクリサーチ
3. アカデミア・研究団体へのヒアリング
4. 患者団体ヒアリング
5. メディアヒアリング
6. 企業（機構＋入居予定社）ヒアリング

○再生医療産業化推進事業 ニーズ・課題サマリー

◆ 万博周辺情報の整理と連携展望の抽出：P32 – P35

- 万博周辺情報の整理
- 万博連携展望サマリー

◆ 全体方針：P36 – P45

- 再生医療産業化推進事業コンセプト
- 広報戦略サマリー
- 万博連携戦略サマリー
- ターゲットごとの戦略マップ

◆ 具体的施策検討：P46 – P56

- R5-R8年度全体施策
- 2023年度(R5) コンテンツ ～広報準備期～
- 2024年度(R6) コンテンツ ～広報本格始動期～
- 2025年度(R7) コンテンツ ～広報活動期～
- 2026年度(R8) コンテンツ ～万博理念継承期～

# ニーズ・課題の抽出

# 再生医療産業化推進事業 各調査について

## ニーズ・課題の抽出 調査概要一覧

### 1. 一般市民への定量調査

調査手法：インターネット調査  
調査地域：全国  
対象者：一般生活者 男女16歳～79歳

サンプル数：2,800サンプル  
実施期間：2022年9月29日～10月3日

### 2. 環境把握のためのデスクリサーチ

#### 【デスクリサーチ】

分析対象 **Web**、新聞・雑誌、業界紙の記事および研究機関等の分析や学術誌での発表論  
キーワード「再生医療 or 遺伝子治療」「未来医療」「医療クラスター」「未来医療国際拠点」「湘南ヘルスイノベーションパーク」「北大阪健康医療都市」「羽田イノベーションシティ」

### 3. アカデミア・研究団体へのヒアリング

日本再生医療学会  
再生医療推進戦略委員  
大阪大学大学院医学系研究科  
器官制御外科学 特任准教授  
岡田 潔 先生  
9月29日ヒアリング

日本再生医療学会  
広報委員長  
ビジョンケア代表取締役社長  
神戸アイセンター設立  
高橋 政代 先生  
11月14日ヒアリング

### 4. 患者団体ヒアリング

全国パーキンソン病友の会大阪府支部  
11月25日ヒアリング

大阪府網膜色素変性症協会  
12月17日ヒアリング

### 5. メディアヒアリング

調査手法：ヒアリング  
調査地域：全国  
対象者：全国紙、通信社、TV、業界紙ウェブメディア、ジャーナリスト、  
医療担当の報道関係者

サンプル数：11ケース（東京9・大阪2）  
実施期間：2022年9月1日～10月28日

### 6. 企業（機構＋入居予定社）ヒアリング

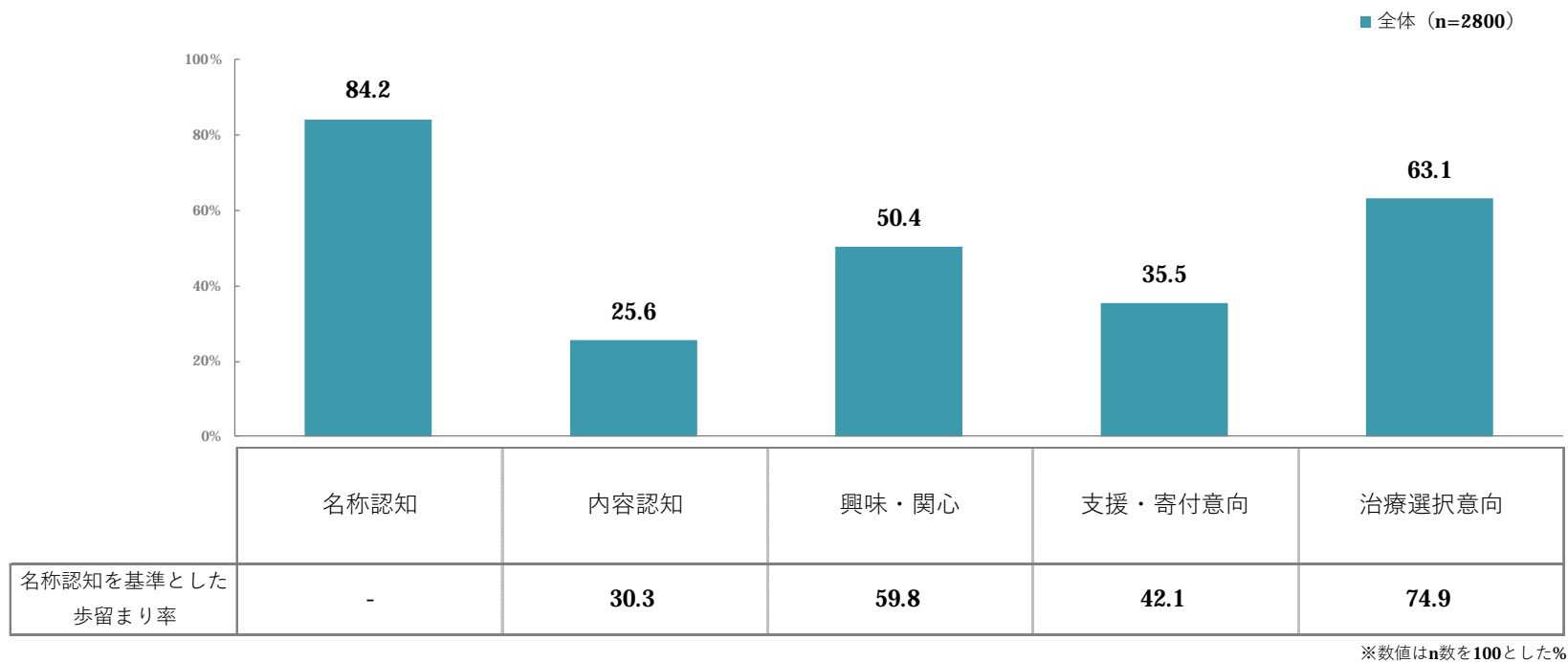
## 1. 一般市民への定量調査

## 1. 一般市民への定量調査

### 「再生医療」の浸透

【再生医療】の認知は8割以上。一般市民にも言葉は浸透している。

「再生医療」の浸透状況



## 1. 一般市民への定量調査

### 「再生医療」について知っている内容

【再生医療】の主な認知内容は「iPS細胞用」「皮膚移植」「角膜移植」など。  
認知内容は多岐に渡り、且つ性別や年代によっても違う。

#### 「再生医療」の認知内容（ベスト5）

		n=	1位	2位	3位	4位	5位
			iPS細胞の使用	皮膚移植	角膜移植	臓器移植・臓器提供	軟骨・骨の移植
全体		(2800)	50.8	46.0	31.0	28.8	26.9
性別	男性	(1387)	51.7	38.3	28.4	29.3	23.3
	女性	(1413)	49.8	53.4	33.5	28.3	30.4
年代別	16-19歳	(162)	38.5	41.7	19.3	34.3	20.8
	20代	(346)	41.5	36.3	21.4	21.5	19.1
	30代	(398)	43.0	45.9	23.2	21.5	21.3
	40代	(518)	45.0	42.6	26.4	26.9	24.0
	50代	(471)	52.3	44.9	29.0	24.8	21.8
	60代	(444)	62.2	50.5	38.0	33.0	34.1
	70代	(460)	62.7	55.3	49.4	40.9	41.1

※数値はn数を100とした%

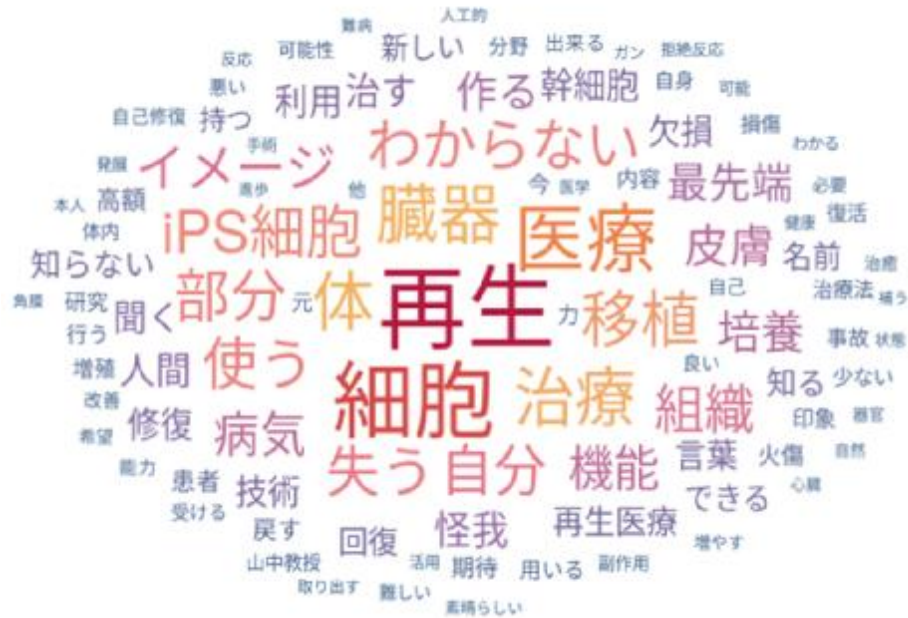


## 1. 一般市民への定量調査

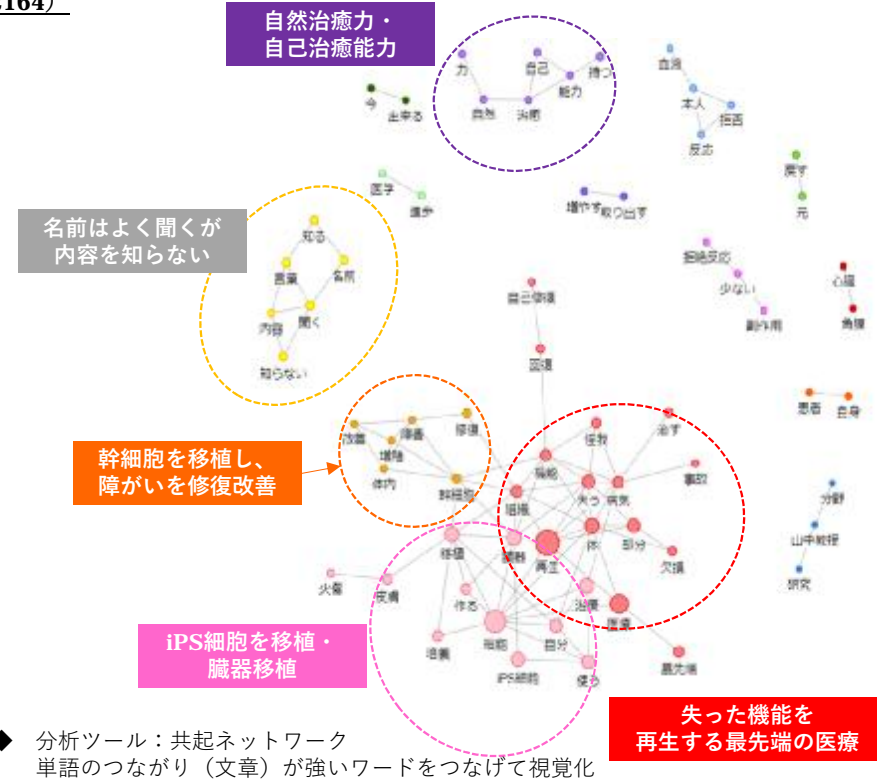
### 「再生医療」について知っている内容（自由回答の分析）

自由回答では「再生」を中心に、「iPS細胞」「医療」「移植」「臓器」「治療」などが広がっているが、「わからない」といった単語も上位にあがっている。

#### 全体(n=2164)



◆ 分析ツール：ワードクラウド  
単語数・100単語  
出現単語数の多い単語が中心に位置する



◆ 分析ツール：共起ネットワーク  
単語のつながり（文章）が強いワードをつなげて視覚化

## 1. 一般市民への定量調査

### 「再生医療」の情報接点

認知経路は、テレビ番組や新聞、雑誌など**一般的なメディア**が中心である。  
但し、10代は学校やYouTubeなども上位にあがる。

「再生医療」の情報接点（ベスト5）  
認知者(n=2358)

1位	テレビ番組	80.0%
2位	新聞記事	26.2%
3位	一般雑誌の記事・書籍	10.5%
4位	家族・友人・知人	6.7%
5位	病院・クリニックからの情報	6.5%

※数値はn数を100とした%

参考：10代認知者(n=122)

- 1位：テレビ：71.1%
- 2位：学校の授業・講義：26.3%
- 3位：新聞記事：14.5%
- 4位：YouTube：13.5%
- 5位：家族友人知人：9.6%

## 1. 一般市民への定量調査

### 「再生医療」のイメージ・印象

【再生医療】のイメージは、**ポジティブな反応が多い。**  
ネガティブは、「費用の高さ」が最も高い。不安感は1割ほど。

全体(n=2800)

#### 「再生医療」のポジティブイメージ（上位）

- |                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| ▶ 「再生医療」は難病の人にとって、希望だと思う            | 56.2% |
| ▶ 「再生医療」は最先端の医療だと思う                 | 49.9% |
| ▶ 「再生医療」が一部では自由診療で実用化され、今後一般的になると思う | 22.4% |
| ▶ 日本は「再生医療」の研究に力を入れていると思う           | 17.0% |

#### 「再生医療」のネガティブイメージ（上位）

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| ▶ 「再生医療」は費用が高い・高そう             | 64.9% |
| ▶ 「再生医療」はまだ研究段階で実用化には時間がかかると思う | 32.0% |
| ▶ 「再生医療」は怖い・不安                 | 10.8% |

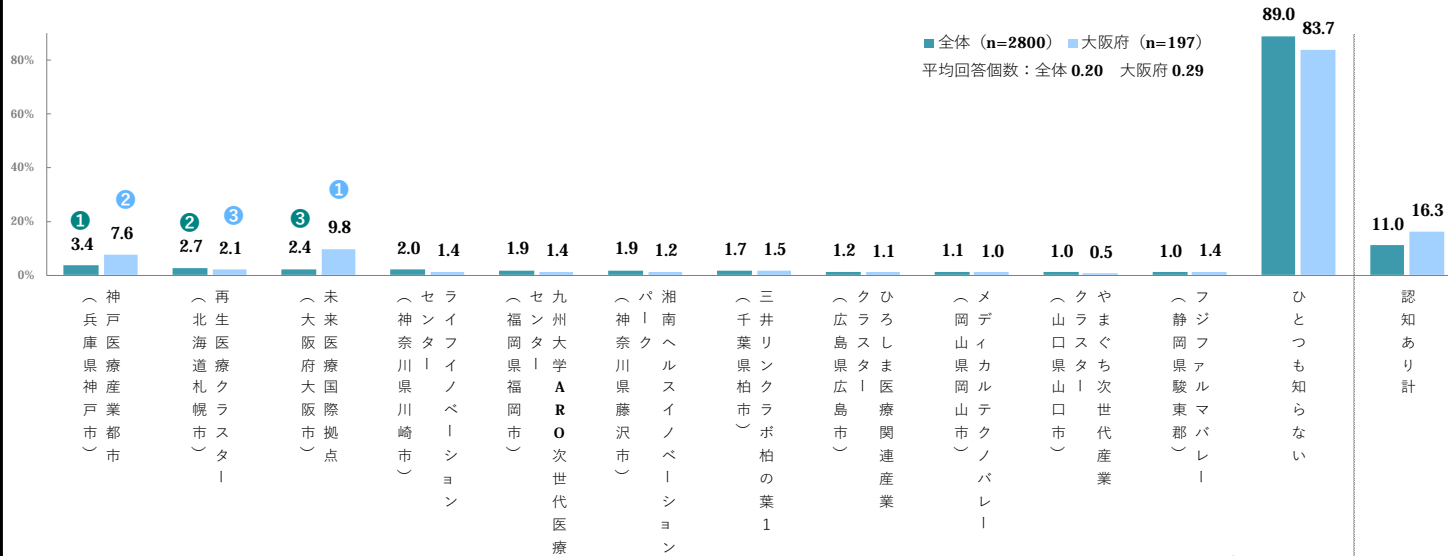
※数値はn数を100とした%

# 1. 一般市民への定量調査

## 「未来医療国際拠点」の浸透状況

《未来医療国際拠点》の認知率は全体で**2.4%**（大阪で**9.8%**）である。  
 【再生医療】の拠点（クラスター）はまだまだ知られていない。

【再生医療】の再生医療の拠点（クラスター）認知



注) 数値はn数を100とした%

「未来医療国際拠点」の内容認知  
 (全体のベスト5)

順位	内容	全体 (n=66)	大阪府 (n=19)
1位	大阪市中之島に「未来医療の産業化」の拠点が できる	64.3%	66.3%
2位	京都大学IPS細胞研究財団が同拠点に入居する	48.8%	49.1%
3位	医療機関と企業、スタートアップ、支援機関等 が一つ屋根の下に集積することを特徴とする、 全国初の拠点である	47.3%	21.8%
4位	「再生医療」をベースに最先端の「未来医療」 の産業化を推進	42.7%	35.1%
5位	2024年春にオープン予定	39.4%	15.5%

注) 数値は「未来医療国際拠点」認知者を100とした%

## 2. 環境把握のためのデスクリサーチ

## 2. 環境把握のためのデスクリサーチ

	サマリー	仮説・重要なポイント
<p>2.環境把握のための デスクリサーチ</p>	<p>(1) 未来医療の露出状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業界紙中心の記事掲載で「再生医療」が最も多く次いで「遺伝子治療」。</li> <li>「未来医療国際拠点」はこの2年8か月で82件。2021年度が多い。</li> </ul> <p>(2) 未来医療を取り巻く環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療の効果とリスクが一般の人に十分知られていない</li> </ul> <p>(3) 再生医療の開発動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療等製品製造のコストが高い。</li> <li>細胞の加工に必要な材料の安定した供給体制が確立されていない。</li> <li>医師の技量や細胞を移植するタイミングに影響を受けやすい。</li> <li>再生医療を創造できる専門人材の育成が不足している。</li> </ul> <p>(4) 医療クラスターの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内の医療クラスター拠点は海外の拠点に比べて、ヒト、モノ、カネを集める力が弱い。拠点としての情報発信を行っていない。</li> <li>海外ではコミュニティ全体の魅力を可視化していることや、地域との対話を積極的に行い起業を促進させているなどの好事例がある。</li> </ul> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品質管理を行った上で、製品価値を適切に価格へ反映する仕組みが求められている。</li> <li>患者登録システム（レジストリ）の構築と有効活用する仕組みが必要である。</li> <li>日本の再生医療等製品に関する規制制度の価値・意義を諸外国にアピールし、諸外国との規制調和を推進することが課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場への情報浸透には、「アカデミア」「関連企業」等はもちろんのこと、「一般」も含めた「報道機関」への対応が重要となる。</li> <li>未来医療は、国内だけでなく、海外との連携も必要である。そのためにも、諸外国へのアピールを早いうちから始めていくことが必要である。</li> <li>2025年の万博は、上記の点を発信できる絶好の機会。この機を目標にその前後で広報の効果を高める戦略は推進すべきである。</li> <li>未来医療国際拠点にヒト、モノ、カネが集まる拠点とするためには、その魅力を広く発信することが必要だが、国内の既クラスターでは拠点として広報していることが少なく、海外クラスターを参考に、魅力の発信を検討することが良いと思われる。</li> <li>未来医療国際拠点は、一般市民含め、適切な情報を伝えることに加え研究者や医師ともコミュニケーションが取れる場を提供することが重要である。</li> <li>拠点のコミュニケーション活動を成果あるものとするために、目標の共有化と、広報スタッフの育成および拠点に参加する全ての人への広報活動に対する理解促進を行う必要がある。</li> </ul>

### 3. アカデミア・研究団体へのヒアリング

## 再生医療普及の課題

### 日本の医療システム・制度の課題

- ・ 再生医療の普及により、社会保障の財政が圧迫される可能性がある。
- ・ 一方、再生医療の評価法が確立しておらず、新規の再生医療等技術、再生医療等製品に適切な価格がつかない可能性もある。

### 産業化の課題

- ・ 再生医療等医薬品の開発コストが高い。
- ・ 再生医療に関わる医療費が高い。
- ・ 再生医療等医薬品は既存治療で効果の低い疾患を対象に開発することが多いため、ビジネスとして成功モデルが少ない。

### 情報環境の課題

#### (1) エビデンスのない情報の蔓延

- ・ 再生医療に対する期待は高いものの、正確な理解まで至っていない。
- ・ 科学的なエビデンスを伴わない再生医療に関する情報が散見される。

#### (2) 倫理面

- ・ 使用する細胞の人体への影響についての安全性が不明な部分がある。
- ・ 再生医療に関する法律や倫理について、グローバルでイニシアティブが発揮できていない。

下記2件のヒアリングより課題を抽出

- ・ 日本再生医療学会 ナショナルコンソーシアム運営委員長  
大阪大学大学院医学系研究科 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ  
特任准教授 岡田 潔 先生
- ・ 日本再生医療学会 広報委員長  
ビジョンケア代表取締役社長 神戸アイセンター設立 高橋 政代 先生



## 中之島未来医療国際拠点への期待

### 拠点のあり方について

- 企業、アカデミア、医師の垣根を取り払い、共同で開発する拠点とする。
- 医療従事者、企業、投資家、患者と一緒に国際展開できる拠点とする。

### 情報発信について

#### (1) コミュニケーションターゲット

- 再生医療の理解促進や開発への参加を図るための患者団体との連携。
- 再生医療の正しい情報を一般社会に広げるためのメディアとの関係構築。
- 開発のための産学連携を促進させるため、アカデミアと企業への活動支援。
- 起業を検討するアカデミアに対する経営・起業ノウハウの提供支援。
- 未来医療を担う次世代の人材の育成。

#### (2) 情報発信・収集の方法

- オーソライズされた情報を発信・収集するためのプラットフォームの構築と広報ツールの整備。
- 再生医療の正しい理解促進と普及に向けて、メディアに対する教育の実施。
- SNS等を活用し、一般市民へのダイレクトな情報発信。
- 患者会と連携し、患者・家族が再生医療の現状や課題を学ぶ教育機会の創造。
- アカデミア、企業が患者の声に触れる機会の創造。
- 企業、研究機関と連携し、分かり易い再生医療に関する一般、子ども向けコンテンツの制作。
- 再生医療に携わるアカデミアの起業や再生医療分野への参入促進を目的とした課題解決型コンテンツの制作。

#### (3) 日本再生医療学会との連携

- 拠点からの情報は学会と連携し、オーソライズされた情報を発信。
- 理解促進のための発信において、学会と連携。

#### 4. 患者団体ヒアリング

## 再生医療についての課題

### 医療情報の難しさ、情報リテラシー不足、断片的な情報提供

- ・ 再生医療を含め、医療情報が一般、患者目線で提供されていない。
- ・ 再生医療情報に関して、リアルタイムの情報が不足していること。とりわけ、iPS細胞技術についての情報は報道等多いが、iPS細胞以外の再生医療、先端医療についての情報が不足している。
- ・ 最新医療の対象となる患者情報や安全性についての情報が少ない。

### 患者の正しい理解の醸成不足

- ・ 医療情報について正確な情報を取得するための患者教育が十分でない。
- ・ 報道やウェブ情報により、過度な期待や間違った解釈をする患者がいる。

### 一般、社会の再生医療に対する正しい理解の醸成不足

- ・ 希少疾患患者、患者団体は再生医療についての関心はあるが、一般・社会の正しい理解の醸成がなされていない。
- ・ インターネット等において、再生医療に関する玉石混交の不安定な情報が飛び交っているが、一般の方を対象とした再生医療の情報リテラシーを向上させる術がない。
- ・ アカデミアや企業と患者の接点が少なく、相互理解を深める機会・場がない。

### 患者団体による再生医療・遺伝子治療などの情報入手機会が少ない

- ・ 患者団体では関係がある疾患に対する再生医療については比較的情報を入手しているが、再生医療、遺伝子治療、AIなどの先端技術についての知識は有する機会がない。
- ・ 他の疾患を扱う患者団体との情報交換、共有はなされていない。
- ・ 情報を入手する機会、場がコロナ前よりも減少している。新規にネットワークを作りづらくなっている。

## 未来医療国際拠点における患者団体とのコミュニケーションの方向性

### 再生医療に関するエビデンスのある情報の提供

- ・ 再生医療のエビデンスのある情報を発信し、正しい理解の促進を図る。
- ・ 学会などとの連携により、オーソライズされた最新情報を迅速に提供する情報提供の仕組みを構築する。
- ・ 再生医療の普及および未来医療国際拠点の認知向上を図るためにメディアを活用する。

### 患者や患者会同士が連携できる場の提供

- ・ 大阪府の患者や患者会が安心して集まり、患者同士が再生医療についての情報交換ができる場を構築する。
- ・ ピアサロンのような患者・家族の交流や相談ができる場として活用することも検討する。

### 企業、アカデミアと大阪府民・患者をつなぐサポート体制の構築

- ・ 大阪府民及び大阪の患者に対して、大阪の企業、アカデミアの取り組みを発信していく機会を模索する。
- ・ 再生医療の研究促進を図るため、患者の声をアカデミア・企業に届ける場をつくる。

### 患者や医師、一般の方が交流できるイベントの実施

- ・ 患者・患者会、一般の人が参加できるイベントを実施する。
- ・ ウェブが使用できない患者に配慮し、ハイブリッドイベントを検討する。
- ・ 大阪府民及び患者会、患者に対して、関西圏内のアカデミア、企業の取り組みが理解できる機会を創造する。

## 5. メディアヒアリング

## 5. メディアヒアリング

### 「再生医療」についてのメディアの意識・実態

#### 再生医療等、最先端医療、研究、技術に対するメディアの関心は高い。(11人中11人)

- 再生医療について、ほとんどのメディアは関心を持っている。
- 一方で、再生医療は新しい医療・治療分野であるため、科学・医療をメインに扱うメディアであっても知識差が大きい。
- 日本発のiPS細胞を活用した再生医療製品、創薬への関心、期待は大きい。

#### 再生医療等の情報入手の経路は幅広いが、ルートが確立されているわけではない。

- 情報アクセスの経路は、「医師・研究者」(11人中5人)「記者説明会」「メディアセミナー」「製薬企業」(11人中3人)の他、「学会」「大学・研究機関」「論文・文献」など。
- Webでの情報は参考として収集。学会発表資料や医師を探し、直接取材をするという方法が多い。
- メディアは、再生医療に関して独自且つ、気軽に聞ける情報ソースとなる“場所”を求めている。

#### 再生医療の実用化に向けた情報への関心は高い。

- 情報として求められているのは、「科学的エビデンスに基づく情報」「メリットだけでなくデメリットも」「新しい事実や報道価値のある(報道しやすい)ストーリー」「再生医療の社会的意義」「患者さんの声」。

## 5. メディアヒアリング

### 「再生医療」についてのメディアの意識・実態

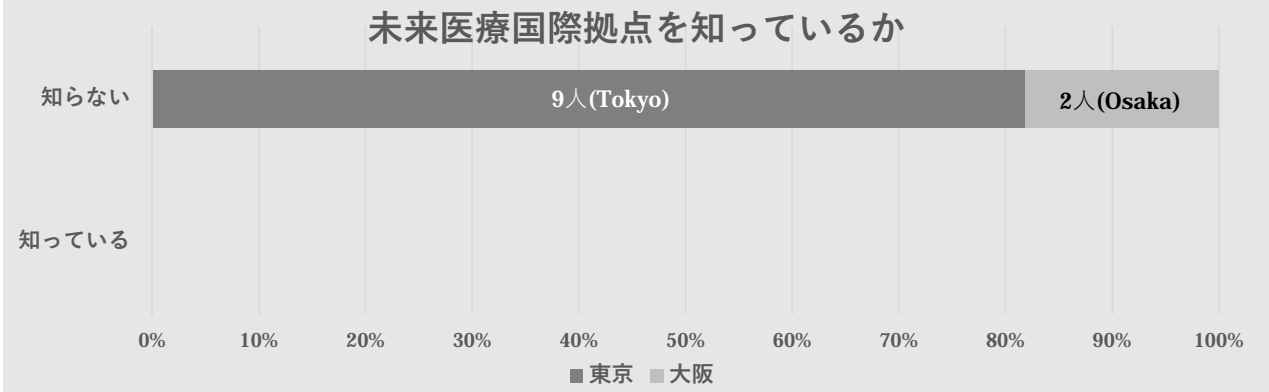
#### 未来医療国際拠点を認知しているメディアは少ない

- 大阪府が既に公表している未来医療国際拠点についての認知は低い。
- 科学、医療に関係する／造詣の深いメディアに未来医療国際拠点の情報が届いていない。
- 未来医療国際拠点の目指す姿や具体的な取り組みがメディアに伝わっていない。

#### 未来医療国際拠点には科学的にエビデンスのある未来医療の情報源としての役割に期待

- 再生医療・遺伝子治療ともに新しい医療のため、科学的にエビデンスのある正しい情報。
- 大阪府、未来医療国際拠点が発表する情報だけでなく、関西圏の研究機関、企業等からの再生医療に関する最新情報（ネガティブな情報含む）。
- 再生医療・遺伝子治療についての基礎知識。
- 患者視点で患者さんに有益な情報。

Q 大阪・中之島に2024年にオープン予定の未来医療国際拠点を開設する予定です。これは、再生医療をベースとした「未来医療」の産業化及び「未来医療」の提供による国際貢献をコンセプトに、先端医療を研究する拠点です。未来医療国際拠点についてご存知でしょうか？



## 6. 企業（機構＋入居予定社）ヒアリング



## 6. 企業（機構＋入居予定社）ヒアリング

### 1. 未来医療国際拠点での事業内容および情報発信について

- ・未来医療の共創拠点として期待している。
- ・クリニックと自社事業とのシナジーを求めている。
- ・今までの共創相手に加えて、新しいパートナーとの出会いの場として期待している。
- ・ビジネス創出拠点として適した場所にあるため、期待は高い。
- ・都市型の拠点として、ネットワーキングやイベントや発信の拠点として発展が期待できる場所と捉えている。

### 2. 社や事業として（拠点以外）の情報発信について

- ・自社のポータルメディアも発信したところであるが、一定の成果が見えてきている。
- ・さまざまなビジネスドメインに対応したPR活動が動いている。
- ・広報チームがメインで動いている領域であり、把握しきれていない。
- ・イベントをはじめ、会員への告知など情報発信は多数。情報コラボレーションのハブとして機能している。
- ・特に「再生医療」イベントなど、行政、アカデミア、企業など様々な座組で実施している。

### 3. 2025年の万博に向けた広報活動について

- ・まだ未定。
- ・自社の万博参画スケジュールに伴い、広報が計画中だが、現時点では想定していない。
- ・再生医療や未来医療に関して、万博を契機に広報を活発化するかは未定。
- ・ビジネス視点で考えると、半年の万博期間の重要性はまだ見出せていない状況。
- ・まだ具体的ではないが、中之島を活用したイベントなどを実施してみたい。

### 4. 大阪府が再生医療についての情報発信を2023年度にスタートするが、そのことについての関わり方や期待について

- ・ 行政としてできる広報、具体的には首長等による「中之島」「未来医療国際拠点」「再生医療」などのキーワードの発信に関して、自主的かつ積極的な発信に期待している。
- ・ 再生医療領域におけるサプライチェーンに参画したいプレーヤーに対し、うまくPRしていく必要がある。
- ・ 一般府民向けの広報は重要だが、アカデミアや企業など供給側への広報も必要。
- ・ 再生医療領域のみでの産業化を期待する「企業」については、我々は一部でしか捉えていない状況。
- ・ 再生医療に関する「大阪府」の広報については、今後、連携の方向性も具体的に考えられるのではないかと考えている。
- ・ 大阪府が進める広報活動と自社のポータル等との連携については、積極的に対応したい。
- ・ ある程度、行政のハブ的役割は必要だと思う。

## 再生医療産業化推進事業 ニーズ・課題サマリー

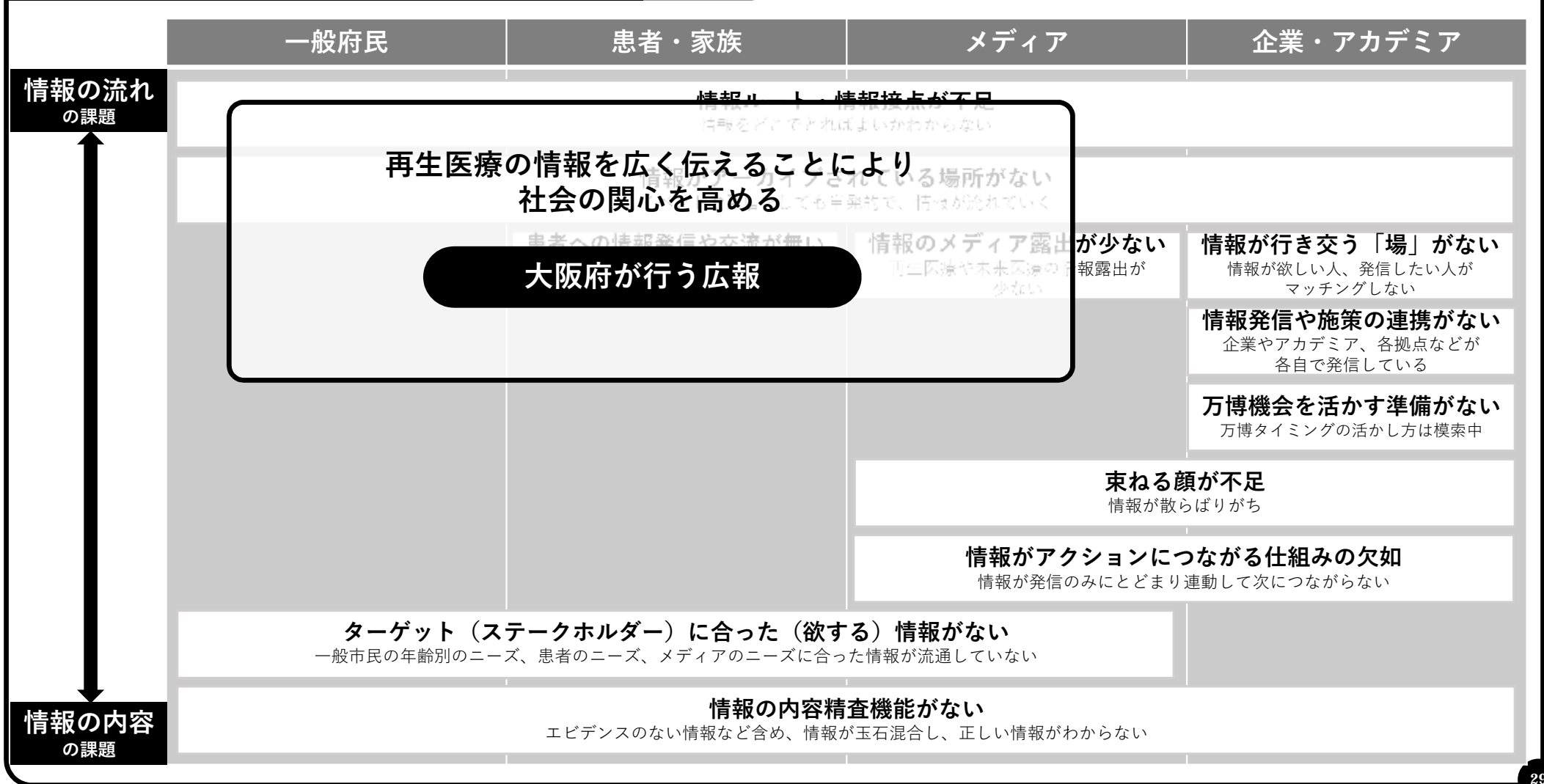
## 2. 調査やヒアリングから見えてきた 現状やニーズ

一般府民	患者・家族	メディア	企業・アカデミア
<p><b>【現状やニーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「再生医療」の言葉の認知は高いものの、情報の玉石混合や偏りにより、内容理解はまだ低い。</li> <li>再生医療について気軽に知り、自身が主体となって考える機会がない。</li> <li>年齢や関心度に応じた情報のバリエーションがなく、自分に合った情報に出会えていない。</li> <li>小中高学生が再生医療や先進技術に関心や期待を持つ動機付けとなる機会やコンテンツが少ない。</li> </ul>	<p><b>【現状やニーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療への期待は大きいものの、情報の取り方がわからない。</li> <li>患者の声を企業やアカデミアに伝える場が無い。</li> <li>疾患横断別に再生医療を学んだり、実際に体験した情報を共有する機会がない。</li> <li>「患者の声を活かした医薬品開発（Patient Centricity）」が今後重要となる認識はアカデミアにもあるが、なかなか実現できていない。</li> </ul>	<p><b>【現状やニーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療等に対するメディアの関心は高いが、情報ルートが確立されていない。</li> <li>拠点も含めた大阪の取組みの認知度が低い。</li> <li>エビデンスのある情報、ネガティブなことも含めた情報、ストーリー化され情報が欲しい。</li> <li>未来医療のメディア露出は少ない。</li> </ul>	<p><b>【現所やニーズ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アカデミア、他企業との連携による新たなコラボレーションを期待。</li> <li>研究者、スタートアップ、企業等が集まるマッチングの場が限られている。</li> <li>情報が玉石混合。正しい情報を伝える仕組みが必要である。</li> </ul>
<p><b>【目指す意識変容・行動変容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療の将来の可能性等について知ってもらい、それを周りの人に伝え、正しい理解の輪を広げる。</li> <li>子どもに未来の医療やいのちの大切さ等について知ってもらい、医療や科学の分野に関心をもつきっかけとなる。</li> </ul>	<p><b>【目指す意識変容・行動変容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療による新たな治療の可能性等について知ってもらい、難治性疾患の克服など未来の医療に期待を持ってもらう。</li> </ul>	<p><b>【目指す意識変容・行動変容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪・関西の再生医療の現状や課題、企業等が取組む再生医療等の最先端の技術等を知ってもらい、広く正しく社会に伝えてもらう。</li> </ul>	<p><b>【目指す意識変容・行動変容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪・関西の企業等が取組む再生医療等の最先端の技術等を知ってもらい、新たな事業連携や共同研究、再生医療分野への参入の可能性を見出してもらう。</li> <li>国内だけでなく海外へ、再生医療の可能性を示していく。</li> </ul>

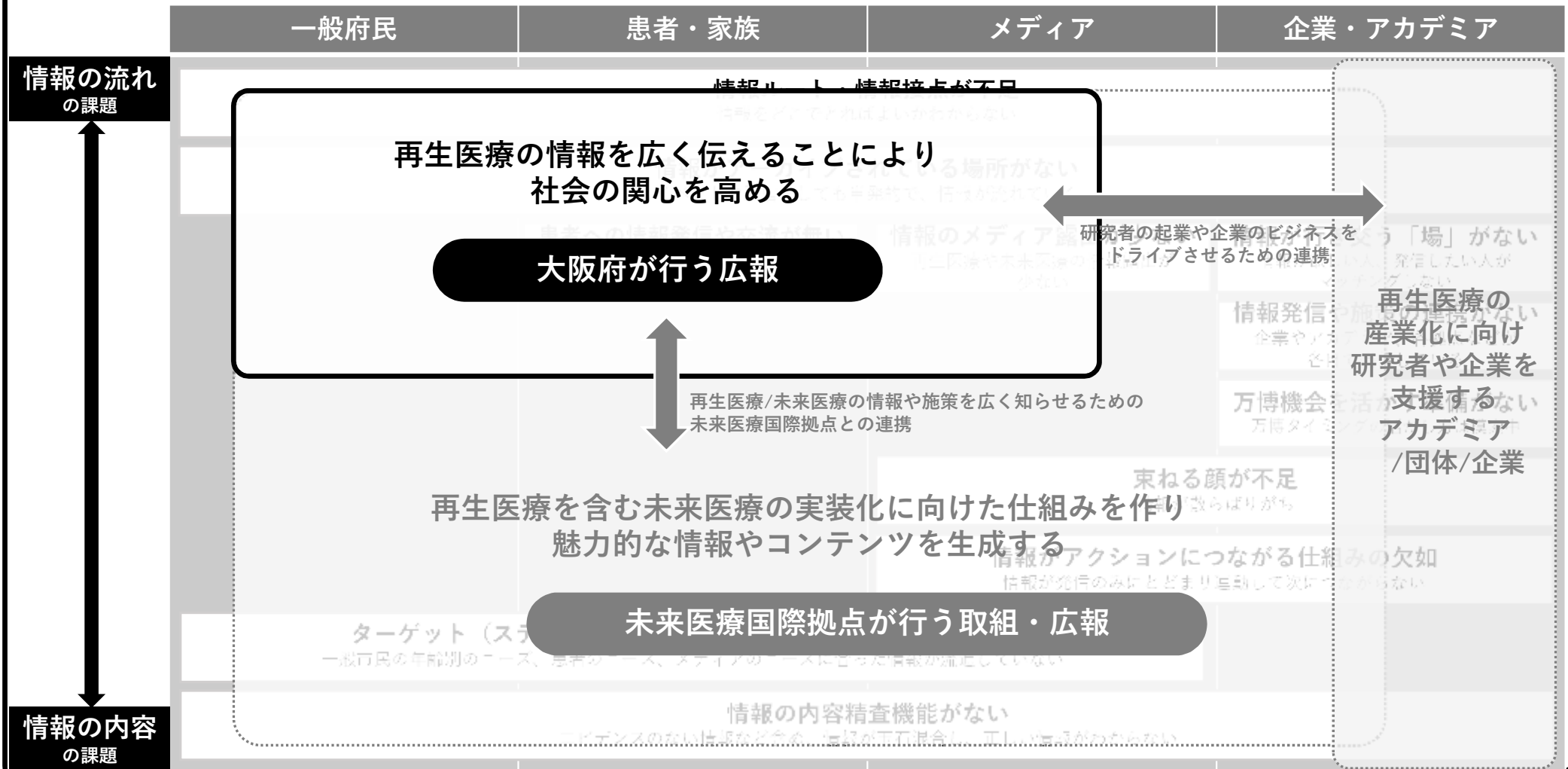
## 2. 調査やヒアリングから見えてきた 再生医療広報の課題

	一般府民	患者・家族	メディア	企業・アカデミア
情報の流れ の課題	情報ルート・情報接点が不足 情報をどこでとればよいかわからない			
	情報がアーカイブされている場所がない イベントや発信をしても単発的で、情報が流れていく			
情報の内容 の課題		患者への情報発信や交流が無い 実用化には患者の巻き込みは重要である	情報のメディア露出が少ない 再生医療や未来医療の情報露出が少ない	情報が行き交う「場」がない 情報が欲しい人、発信したい人がマッチングしない
				情報発信や施策の連携がない 企業やアカデミア、各拠点などが各自で発信している
				万博機会を活かす準備がない 万博タイミングの活かし方は模索中
				束ねる顔が不足 情報が散らばりがち
				情報がアクションにつながる仕組みの欠如 情報が発信のみにとどまり連動して次につながらない
		ターゲット（ステークホルダー）に合った（欲する）情報がない 一般市民の年齢別のニーズ、患者のニーズ、メディアのニーズに合った情報が流通していない		
	情報の内容精査機能がない エビデンスのない情報など含め、情報が玉石混合し、正しい情報がわからない			

## 2. 調査やヒアリングから見えてきた 再生医療広報の課題



2. 調査やヒアリングから見えてきた 再生医療広報の課題

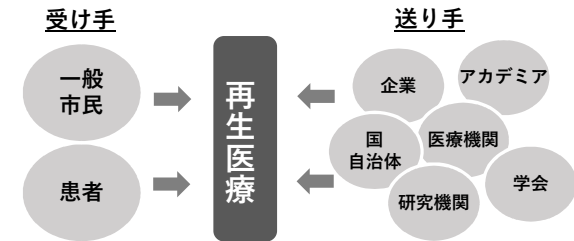


再生医療産業化推進事業 ニーズ・課題サマリー

ニーズ

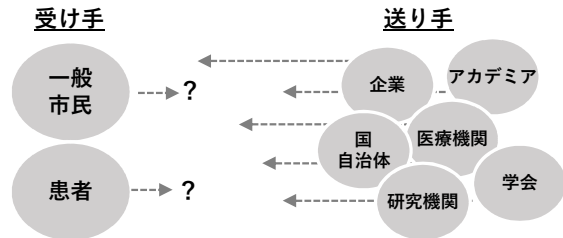
「再生医療」の「正しい情報」を、  
 これからの医療は「再生医療」を、  
 受け手と送り手が**マッチングしたニーズ**がある

受け手 「知りたい」 ⇔ 送り手 「広めたい」  
 受け手 「選びたい」 ⇔ 送り手 「普及させたい」



現状

ステークホルダーは各自でアクションを起こしている  
 ただそれが、**点となった情報発信**となっており、  
 正しい情報が、伝えたい相手に対して、浸透していない状況である

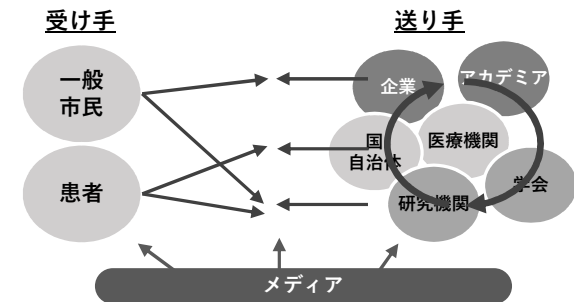


今後に向けた課題

今後、情報発信の**点を線に、そして面に**していき、  
 情報が正しく伝わる導線を作ることが今後の課題である

つなぐ 役割→大阪府  
 機能→メディア

面にする 機会→大阪・関西万博  
 場所→未来医療国際拠点/中之島





# 万博周辺情報の整理と連携展望の抽出

## 健康・医療(ライフサイエンス)

### アクションプランに予定されている情報発信等との連携

4. 健康・医療 (ライフサイエンス)

連絡先 厚生労働省医政局研究開発政策課  
03-3595-2430

( [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuu/saisei\\_iryuu/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/saisei_iryuu/index.html) )

#### 再生・細胞医療・遺伝子治療分野の情報発信

##### ①実施概要

- 再生・細胞医療等の実用化に向けて、臨床研究支援・実用化のための技術的支援・人材教育の体制強化・マッチング支援・イベント開催等に取り組み、再生・細胞医療等に関する革新的な研究開発について、万博会場内外のいずれかのエリアで効果的な情報発信を行う。
- 具体的には、再生医療等実用化研究事業において支援している研究の成果等を踏まえた細胞加工物等に関する展示を行う。

- (実施主体) 民間団体等
- (実施場所) 会場内(メッセ、催事場又はFLE)
- (実施期間) 一部期間(テーマウィーク期間中等を予定)

##### ②今後の実施方針

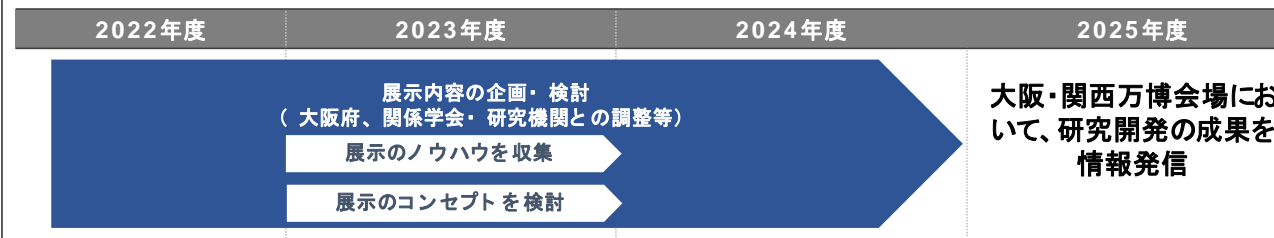
- 令和5年度は、再生・細胞医療・遺伝子治療分野の展示に関するノウハウの収集を行うとともに、大阪府、関係学会及び研究機関等と連携しながら展示のコンセプト等を検討する。

##### ③予算

- 令和5年度概算決定額: 2,712百万円  
(関連事業「再生医療等実用化研究事業」の予算額)  
( <https://www.amed.go.jp/program/list/13/01/002.html> )

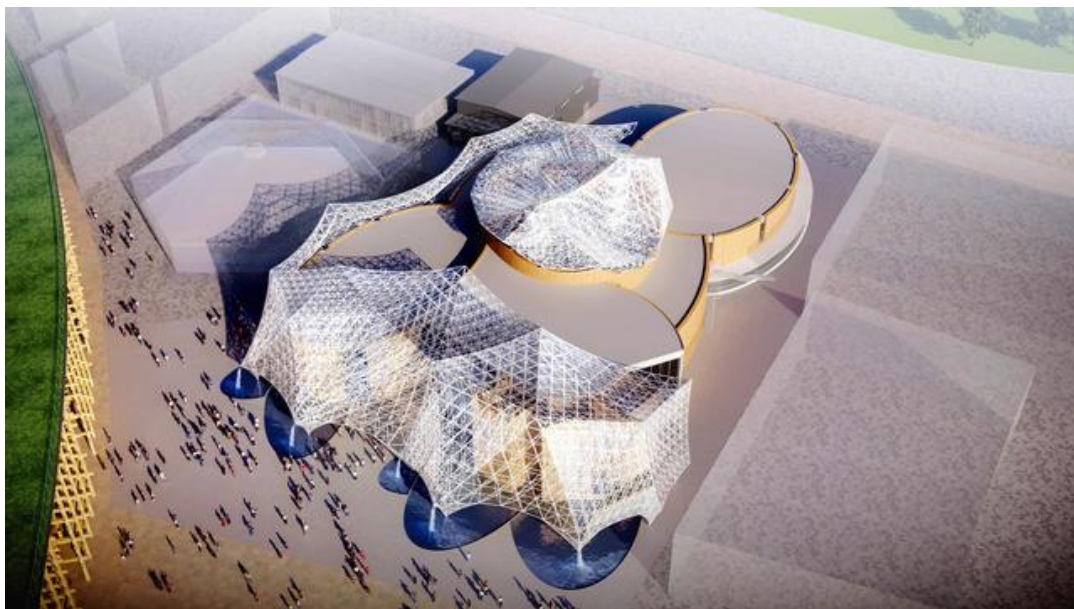
- 令和5年度概算決定額: 348百万円  
(関連事業「再生医療等実用化基盤整備促進事業」の予算額)  
( <https://www.amed.go.jp/program/list/13/01/09.html> )

##### ④工程表



33

## 参考資料「大阪ヘルスケアパビリオン（大阪府市館）」



大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn

提供：（一社）大阪パビリオン  
協力：2025年日本国際博覧会協会

### 出展参加者一覧（令和5年1月12日現在）

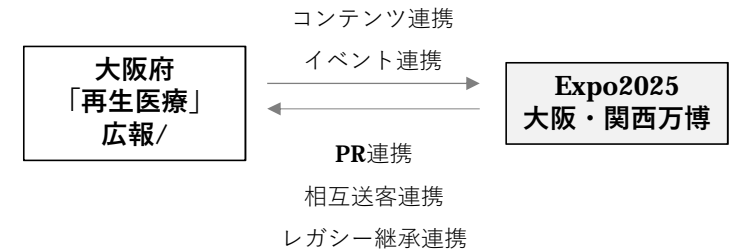
- ・アサヒグループジャパン株式会社
- ・江崎グリコ株式会社
- ・株式会社カプコン
- ・小林製薬株式会社
- ・株式会社サイエンス
- ・公益社団法人全日本不動産協会
- ・タカラベルモント株式会社
- ・TIS株式会社
- ・東京書籍株式会社
- ・西日本旅客鉄道株式会社
- ・日本生命保険相互会社
- ・株式会社ビットキー
- ・BIPROGY株式会社
- ・株式会社ファーマフーズ
- ・株式会社ミルボン
- ・森永乳業株式会社
- ・ロート製薬株式会社
- ・六甲バター株式会社

2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会HPより

## 万博連携展望サマリー

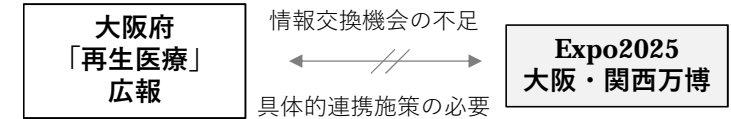
### ニーズ

万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」における大きなテーマの一つであるヘルスケア領域において、再生医療・未来医療は重要なコンテンツであり、コンテンツ連携への**ニーズを確認**。特に、未来医療国際拠点は、相互送客、レガシー継承等の観点で**連携ニーズが高い**



### 現状

パビリオン、催事等、それぞれのアクションプランは、**2024年**に入ってから具体化していく状況であり、相互連携の手法や内容について**情報交換機会の創出と、具体策の検討が必要な状況**。



### 今後に向けて

今後、情報交換機会の創出に際し、連携可能性の精度を上げていくためには、**具体的な連携施策の企画・提案**により、そのディスカッションを活性化することが重要な課題。特に、未来医療国際拠点を活用した連携案が最重要である



# 全体方針

# 再生医療産業化推進事業コンセプト

大阪府は

再生医療が、  
つながる 広がる 選べること

を目指します。

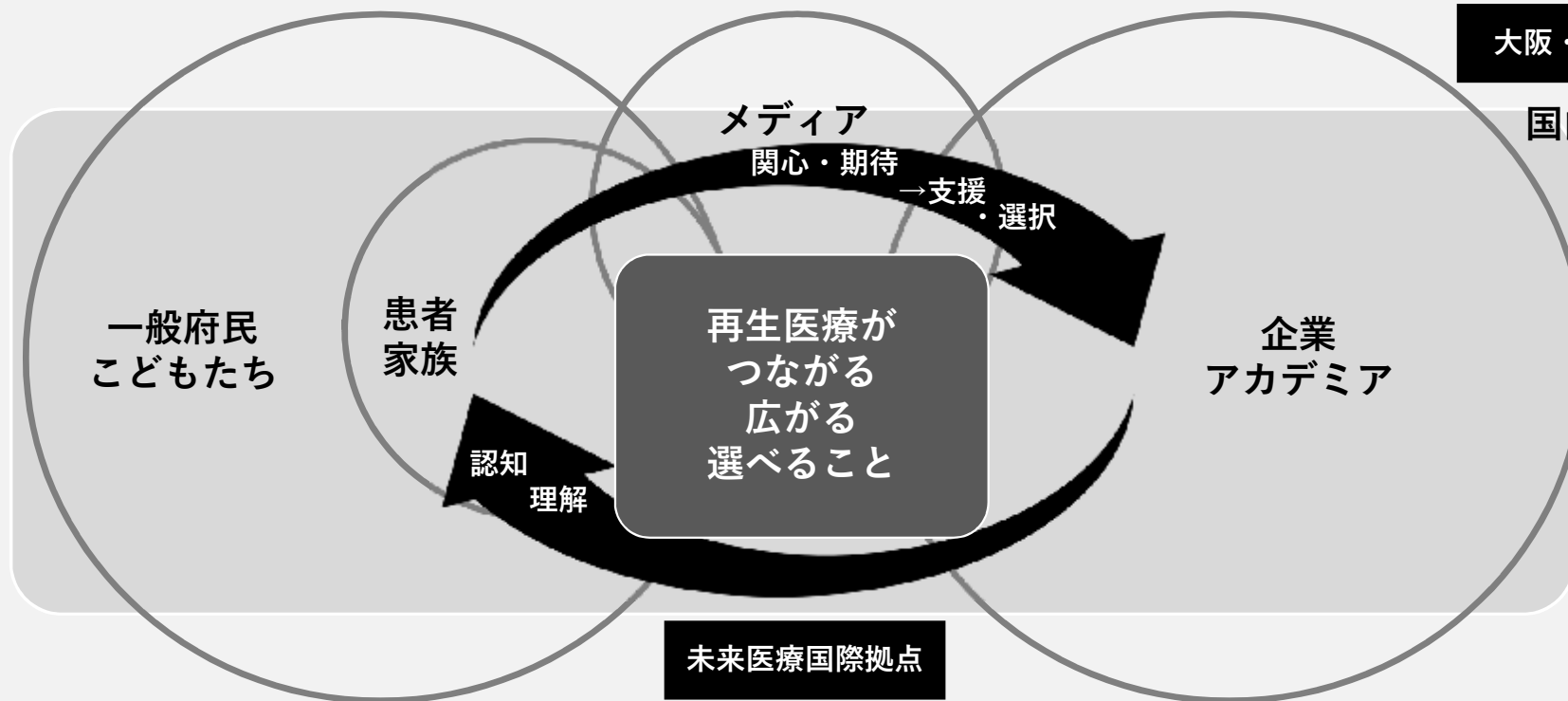
# 広報戦略サマリー



万博を機に海外へ広がる **海外**

**大阪・関西万博**

**国内**

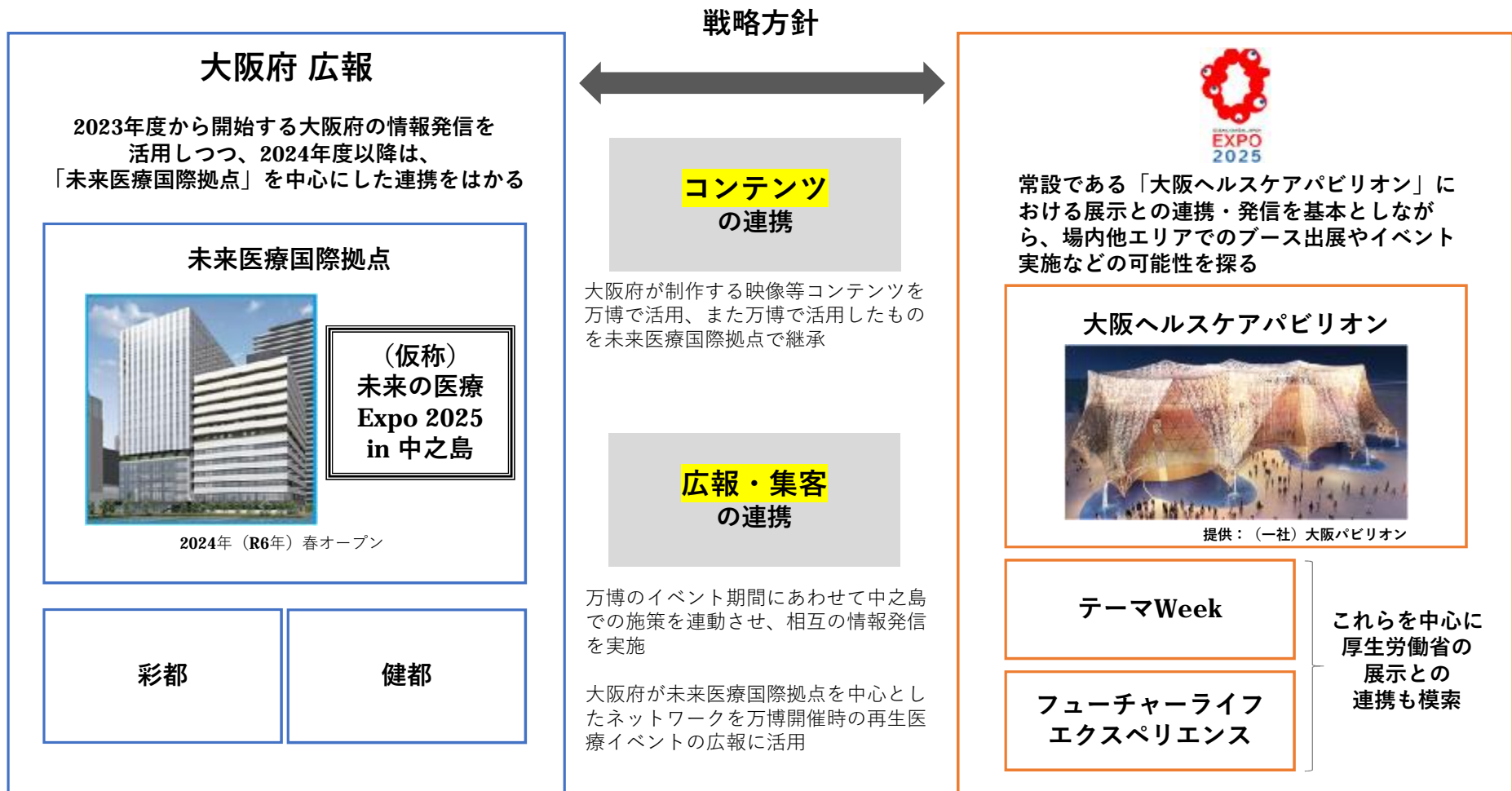


**未来医療国際拠点**

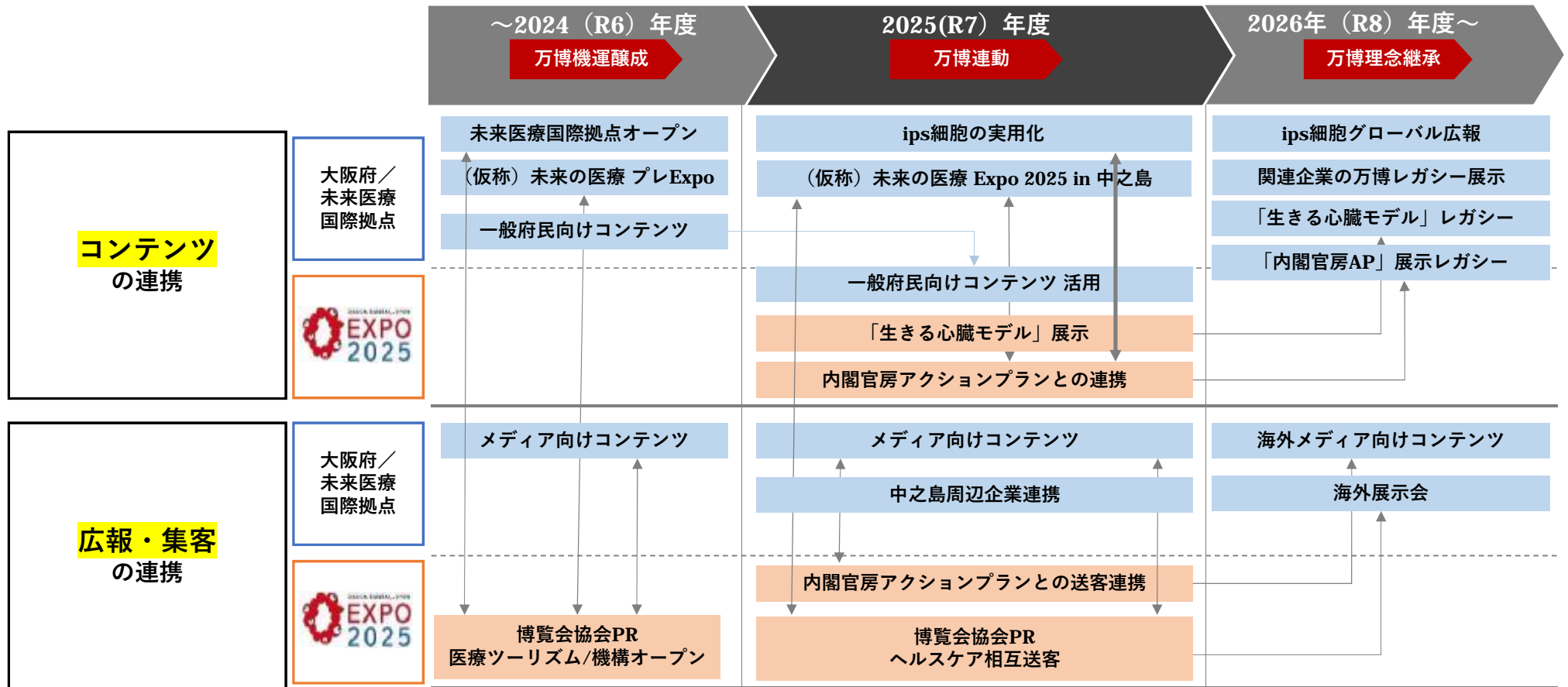
拠点や企業・団体と連携し、認知や理解を深める

# 万博連携戦略サマリー

## 万博との連携に関する全体戦略の方向性



万博広報連携に関する全体戦略 素案



## ターゲットごとの戦略マップ

ターゲット（ステークホルダー）別の時系列でみた狙い

	2022年（R4年）度 計画期間	2023年（R5年）度 広報準備期	2024年（R6年）度 広報本格始動期	2025年（R7年）度 広報活動期	2026年（R8年）度以降 再生医療定着期	
	計画策定	情報発信のための土台作り （コンテンツ制作等）	国内を中心とした理解促進 未来医療国際拠点オープン <b>万博機運醸成</b>	万博を活用し、国内外への発信 大阪・関西万博の開催 <b>万博連動</b>	再生医療に関する理解の定着 ⇒再生医療の普及 <b>万博理念継承</b>	
一般府民 こどもたち	万博タイミングを 最大限に 活用するよう 関係機関等と 連携できる 包括的かつ中長期の 計画策定	コンテンツ等準備	再生医療の理解促進・可能性等への期待醸成			
患者・家族			先端技術に触れる機会の創出・興味関心の醸成		大阪のポテンシャルの理解促進	
企業 スタートアップ 医療機関 アカデミア		難病患者団体を中心に再生医療の正しい理解の醸成			再生医療を期待する患者の声の共有	再生医療を受けた患者の体験・情報の共有
		再生医療分野の参入に関心のある企業や起業家、医療機関等への情報提供機会の創出			大阪のポテンシャルの理解・拠点等への期待感醸成	
報道機関	起業に関心のある研究者と企業等とのコミュニケーションの機会創出			再生医療への正しい理解・情報提供機会の創出と情報ルートの仕組み確立		
	大阪のポテンシャルの理解・拠点等への期待感醸成		国内外に向けた効果的な発信（患者の体験・企業やアカデミア等の取組等）			

## 具体的施策検討

## 2023年度(R5)～2026年度(R8) 全体戦略マップ



ターゲット（ステークホルダー）別の時系列でみた狙い

	2022年（R4年）度 計画期間	2023年（R5年）度 広報準備期	2024年（R6年）度 広報本格始動期	2025年（R7年）度 広報活動期	2026年（R8年）度以降 再生医療定着期
	計画策定	情報発信のための土台作り （コンテンツ制作等）	国内を中心とした理解促進 未来医療国際拠点オープン <b>万博機運醸成</b>	万博を活用し、国内外への発信 大阪・関西万博の開催 <b>万博連動</b>	再生医療に関する理解の定着 ⇒再生医療の普及 <b>万博理念継承</b>
一般府民 こどもたち	万博タイミングを 最大限に 活用するよう 関係機関等と 連携できる 包括的かつ中長期の 計画策定	★一般府民向け映像制作	★一般府民向け映像制作 （万博での活用を想定し、 海外対応できるようにする）	★（仮称） 未来医療フォーラム第2回  （仮称） 未来の医療 Expo 2025 in 中之島 ★海外展示会出展	★（仮称） 未来の医療 Expo レガシー
患者・家族		★（仮称） 未来医療プレフォーラム	★（仮称） 未来医療フォーラム 第1回		★（仮称） 未来医療国際フォーラム第3回
企業 スタートアップ 医療機関 アカデミア			（仮称） 未来の医療 プレExpo		
報道機関		★メディア向け勉強会	★HP・SNS、拠点での情報発信 ※未来医療推進機構との連携 スペース等を活用した情報発信		★メディア向け勉強会 ★海外メディア向け見学会

**2023年度(R5) コンテンツ  
広報準備期**

## 2023年度（R5年度） コンテンツ

2023年度 (R5年度)	施策	実施内容	狙い	ロードマップ
	一般府民向け映像コンテンツの開発	◎大阪・関西のアカデミアや諸団体と連携し、再生医療の可能性や現状の取り組みを分かりやすく伝える映像制作	◎再生医療の正しい理解の促進 ◎大阪府の再生医療産業化に向けた取り組みへの理解促進 ◎未来医療国際拠点の認知向上 ◎大阪府や未来医療国際拠点、再生医療学会等のHPやSNS、施設見学等での活用 ◎ライフサイエンスへの興味を喚起し、未来のライフサイエンスを担う人材への動機づけ	<p>&lt;2023年度&gt; 府民向けの映像制作 ・大阪府、未来医療国際拠点HP等への展開 ・外部団体や患者会への映像貸し出し</p> <p>&lt;2024年度&gt; 府民向け映像コンテンツの拡充 ・海外展示会出展等での活用（英語化）</p> <p>&lt;2025年度以降&gt; ・万博を踏まえたコンテンツ拡充を検討 ・再生医療の実用化の進展に合わせてコンテンツの検討</p>
	アカデミア・関連団体と連携した未来医療プレフォーラムの実施	◎拠点オープン前に患者を対象とした再生医療に関するプレフォーラムを実施 ◎産学官民連携の疾患横断型患者団体イベント ◎拠点オープン後は全国的なフォーラムを視野に入れる	◎患者・家族に対する教育、再生医療の正しい理解促進 ◎プレフォーラムの一部を映像編集し、HP等で府民及び全国の患者団体・患者・家族に発信 ◎患者の期待、体験の声を顕在化と産業化加速 ◎再生医療に携わる企業、団体、研究機関（研究者）が患者の声を聞く機会の創出	<p>&lt;2023年度&gt; ・患者調査を踏まえ、関係する団体と連携したプログラム策定 ・拠点、アカデミア、関連団体の調整 ・パイロット版として小規模でプレフォーラムを開催</p> <p>&lt;2024年度&gt; ・希少疾患デー（2月末）をフックに府内患者団体と実施</p> <p>&lt;2025年度以降&gt; ・全国の患者団体と連携</p>
	メディア有識者に向けた定期的なオンライン勉強会“未来医療研究会（仮称）”の開催	◎未来医療国際拠点オープン前に、再生医療をはじめとした未来医療に対する理解促進のため、メディア教育の場として、医療・科学に造詣の深い記者を対象とした勉強会を定期的に開催（年2回程度）	◎メディア有識者に対し情報提供及び意見交換の場を提供 ◎再生医療を中心とした未来医療への理解促進 ◎メディアの関心・興味を寄せるポイントの意見収集 ◎メディア有識者との関係構築を図るとともにメディアネットワーク構築 ◎継続した情報提供による記事化創出機会の最大化	<p>&lt;2023年度&gt; ・対象記者の検討 ・テーマ及び講師の検討 ・会場・スケジュール調整 (第1回) (例) ・再生医療の歩みと課題についてKey Opinion Leaderによる解説 ・再生医療について参加記者との意見交換 ・患者さんの生の声を聴く (第2回) (例) ・再生医療の状況や課題についてKey Opinion Leaderによる解説 ・参加記者との意見交換</p> <p>&lt;2024年度&gt; ・再生医療の状況や課題についてKey Opinion Leaderによる解説 ・参加記者との意見交換</p> <p>&lt;2025年度以降&gt; ・再生医療の開発状況に合わせたテーマを解説</p>

**2024年度(R6) コンテンツ  
広報本格始動期**

## 2024年度（R6年度） コンテンツ

施策	実施内容	狙い	ロードマップ
一般府民向け映像コンテンツの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎（仮称）未来の医療ブレExpoの開催に併せ、府民向けに未来医療の理解促進を図る映像コンテンツを制作</li> <li>◎海外展示会出展での活用も視野に入れ、英語化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎再生医療の実用化に関する最新情報を府民に対し情報提供</li> <li>◎未来医療国際拠点のグローバルにおける認知向上</li> <li>◎企業・大阪の魅力について海外アカデミアに向けて発信する</li> <li>◎万博を機会とした大阪の産業活性化</li> </ul>	<p>&lt;2024年度&gt; 府民向け映像コンテンツの拡充 —万博/EXPO等への活用 —海外展示会出展等での活用（英語化）</p> <p>&lt;2025年度以降&gt; ・万博を踏まえたコンテンツ拡充を検討 ・再生医療の実用化の進展に合わせてコンテンツの検討</p>
アカデミア・関連団体と連携した未来医療フォーラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者を対象とした再生医療に関するフォーラムを実施</li> <li>◎産学官民連携の疾患横断型患者団体イベント</li> <li>◎大阪・関西圏の患者さんから全国の患者さんが参加するイベントに拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者・家族に対する教育、再生医療の正しい理解促進</li> <li>◎フォーラムの一部を映像編集し、HP等で府民及び全国の患者団体・患者・家族に情報発信</li> <li>◎患者の期待、体験の声の顕在化と産業化加速</li> <li>◎再生医療に携わる企業、団体、研究機関（研究者）が患者の声を聞く機会の創出</li> </ul>	<p>&lt;2024年度&gt; 希少疾患デー（2月末）をフックに府内患者団体と実施 再生医療促進に向け、患者会結束 疾患横断的的患者団体と再生医療、万博及び未来医療国際拠点の意義、背景を学ぶ</p> <p>&lt;2025年度&gt; 希少疾患デーに継続開催（全国へ拡大） my iPS施設見学の実施 患者と連携した患者体験共有型コミュニティの開設（メタバース等）</p>
メディア有識者に向けた定期的な勉強会“未来医療研究会（仮称）”の開催	再生医療をはじめとした未来医療に対する理解促進のため、メディア教育の場として、医療・科学に造詣の深い記者を対象とした勉強会を定期的に開催（年2回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎メディア有識者に対し情報提供及び意見交換の場を提供</li> <li>◎再生医療を中心とした未来医療への理解促進</li> <li>◎メディアの関心・興味を寄せるポイントの意見収集</li> <li>◎メディア有識者との関係構築を図るとともにメディアネットワーク構築</li> <li>◎継続した情報提供による記事化創出機会の最大化</li> </ul>	<p>&lt;2024年度&gt; ・再生医療の状況や課題についてKey Opinion Leaderによる解説 ・参加記者との意見交換</p> <p>&lt;2025年度以降&gt; ・再生医療の開発状況に合わせたテーマを解説</p>
（仮称）未来の医療 ブレ Expo	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎一般の方向けに地域社会と一緒に、未来医療を考え、共に体感・共感できるイベントの実施</li> <li>◎中之島未来医療のオープンと合わせ、周辺連携施設のオープンイベントを実施（オープンカフェ、キャンパス、ホスピタル、パーク等）</li> <li>◎（仮称）未来の医療 ブレ Expoと位置づけ、2025年のテストイベントの意味合いも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎未来医療国際拠点入居企業・団体と府民の交流による再生医療の理解促進</li> <li>◎周辺地域・施設と共に、国際的な医療産業クラスターの創造</li> <li>◎（仮称）未来の医療 Expo 2025 in 中之島 への協賛モデルの模索も検討</li> </ul>	<p>&lt;2024年度&gt; （仮称）未来の医療 ブレ Expoとして開催 連携団体・企業を中心に拠点イベント実施</p> <p>&lt;2025年度&gt; （仮称）未来の医療 ブレ Expoとして開催 未来医療国際拠点周辺の連携施設へ拡大</p> <p>&lt;2026年度&gt; 参加する企業、団体等の拡大 梅きたなどとあわせ、再生医療見本市に拡大</p>

**2025年度(R7) コンテンツ  
広報活動期**

## 2025年度（R7年度） コンテンツ

施策	実施内容	狙い	ロードマップ
一般府民向け映像コンテンツの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎（仮称）未来医療創造フェスティバルの開催に併せ、府民向けに未来医療の理解促進を図る映像コンテンツを制作（my iPSプロジェクト等）</li> <li>◎海外展示会出展での活用も視野に入れ、英語化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎再生医療の実用化に関する最新情報を府民に対し情報提供</li> <li>◎未来医療国際拠点のグローバルにおける認知向上</li> <li>◎企業・大阪の魅力について海外アカデミアに向けて発信する</li> <li>◎万博を機会とした大阪の産業活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・万博を踏まえたコンテンツ拡充を検討</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療の実用化の進展に合わせてコンテンツの検討</li> </ul> </li> </ul>
アカデミア・関連団体と連携した未来医療フォーラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者を対象とした再生医療に関するフォーラムを実施</li> <li>◎産学官民連携の疾患横断型患者団体イベント</li> <li>◎大阪・関西圏の患者さんから全国の患者さんが参加するイベントに拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者・家族に対する教育、再生医療の正しい理解増進</li> <li>◎フォーラムの一部を映像編集し、HP等で府民及び全国の患者団体・患者・家族に情報拡散</li> <li>◎患者の期待、体験の声の顕在化と産業化加速</li> <li>◎再生医療に携わる企業、団体、研究機関（研究者）が患者の声を聞く機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・希少疾患デーに継続開催（全国へ拡大）</li> <li>・my iPS見学の実施</li> <li>・患者と連携した患者体験共有型コミュニティの開設（メタバース等）</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療患者のPersonal Health Recordの検討</li> <li>・再生医療の体験した声と医療従事者の実情の共有</li> </ul> </li> </ul>
2025年度（R7年度） （仮称）未来の医療 Expo 2025 in 中之島の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎一般の方向けに地域社会と一緒に、未来医療を考え、共に体感・共感できるイベントの実施（my iPSプロジェクト等）</li> <li>◎（仮称）未来の医療 Expo 2025 in 中之島と合わせ、周辺連携施設のオープンイベントを実施（オープンカフェ、キャンパス、ホスピタル、パーク等）</li> <li>◎拠点と連携団体でスタートし将来的には再生医療の見本市化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎未来医療国際拠点入居企業・団体と府民の交流による再生医療の理解促進</li> <li>◎周辺地域・施設と共に、国際的な医療産業クラスターの創造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>（仮称）未来の医療 Expo 2025 in 中之島として開催</li> <li>未来医療国際拠点周辺の連携施設へ拡大</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>参加する企業、団体等の拡大</li> <li>梅キタなどとあわせ、再生医療見本市に拡大</li> </ul> </li> </ul>
海外展示会での出展	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎バイオテクノロジーに関する展示会・見本市への出展を通じ、海外の企業や研究機関に向けて大阪府の取り組みに対する関心の醸成</li> <li>◎大阪府および関西圏の研究機関、企業、未来医療国際拠点の認知向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎未来医療国際拠点に関する認知向上</li> <li>◎大阪府の再生医療への取り組みに対する理解促進</li> <li>◎海外企業や研究機関との連携や海外から大阪府への投資促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際展示会に向けた出展準備</li> <li>・一出展先の決定、出展内容の検討</li> <li>・パンフレット、映像資料の作成</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の実施</li> <li>・展示会で接触のあった企業・団体等への案内</li> </ul> </li> </ul>
メディア有識者に向けた定期的な勉強会“未来医療研究会（仮称）”の開催	再生医療をはじめとした未来医療に対する理解促進のため、メディア教育の場として、医療・科学に造詣の深い記者を対象とした勉強会を定期的に開催（年2回程度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎メディア有識者に対し情報提供及び意見交換の場を提供</li> <li>◎再生医療を中心とした未来医療への理解促進</li> <li>◎メディアの関心・興味を寄せるポイントの意見収集</li> <li>◎メディア有識者との関係構築を図るとともにメディアネットワーク構築</li> <li>◎継続した情報提供による記事化創出機会の最大化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療の開発状況に合わせたテーマをKey Opinion Leaderから解説</li> <li>・参加記者との意見交換</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療の開発状況に合わせたテーマを解説</li> </ul> </li> </ul>
海外メディア向け拠点見学会・説明会の実施	◎万博開催に合わせ、日本外国特派員協会加盟記者、ジャーナリストを対象とした未来医療国際拠点の見学会、大阪・関西の再生医療に関する説明会を実施 併せて、大阪のスーパーシティ構想等、大阪府の取り組みをグローバルで紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎大阪・関西の未来医療に対する取り組み理解</li> <li>◎万博の情報提供と大阪・関西のポテンシャルのグローバル発信</li> <li>◎各国への情報発信と万博、未来医療拠点の認知の向上</li> <li>◎再生医療に取り組む研究機関などのグローバル・メディア露出機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;2025年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本外国特派員協会へ見学会・説明会の提案</li> <li>・プログラムの作成</li> <li>・連携研究機関、施設と調整</li> </ul> </li> <li>&lt;2026年度&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点見学会と説明会の実施</li> </ul> </li> </ul>

**2026年度(R8) コンテンツ  
万博理念継承**



## 2026年度（R8年度） コンテンツ

施策	実施内容	狙い	ロードマップ
一般府民向け映像コンテンツの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎（仮称）未来の医療 Expoレガシーの開催に併せ、府民向けに未来医療の理解促進を図る映像コンテンツを制作</li> <li>◎海外展示会出展での活用も視野に入れ、英語化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎再生医療の実用化に関する最新情報を府民に対し情報提供</li> <li>◎未来医療国際拠点のグローバルにおける認知向上</li> <li>◎企業・大阪の魅力について海外アカデミアに向けて発信する</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療の実用化の進展に合わせてコンテンツの検討</li> </ul>
アカデミア・関連団体と連携した未来医療フォーラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者を対象とした再生医療に関するフォーラムを実施</li> <li>◎産学官民連携の疾患横断型患者団体イベント</li> <li>◎大阪・関西圏の患者さんから全国の患者さんが参加するイベントに拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎患者・家族に対する教育、再生医療の正しい理解増進</li> <li>◎フォーラムの一部を映像編集し、HP等で府民及び全国の患者団体・患者・家族に情報拡散</li> <li>◎患者の期待、体験の声を顕在化と産業化加速</li> <li>◎再生医療に携わる企業、団体、研究機関（研究者）が患者の声を聞く機会の創出</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希少疾患デーに継続開催（全国へ拡大）</li> <li>・再生医療患者のPersonal Health Recordの検討</li> <li>・再生医療の体験した声と医療従事者の実情の共有</li> </ul>
（仮称）未来の医療 Expo レガシーの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎一般の方向けに地域社会と一緒に、未来医療を考え、共に体感・共感できるイベントの実施</li> <li>◎（仮称）未来の医療 Expo レガシーと合わせ、周辺連携施設のオープンイベントを実施（オープンカフェ、キャンパス、ホスピタル、パーク等）</li> <li>◎拠点と連携団体でスタートし将来的には再生医療の見本市化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎未来医療国際拠点入居企業・団体と府民の交流による再生医療の理解促進</li> <li>◎周辺地域・施設と共に、国際的な医療産業クラスターの創造</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加する企業、団体等の拡大</li> <li>・梅キタなどとあわせ、再生医療見本市に拡大</li> </ul>
大阪府市館「生きる心臓モデル」の継承展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎万博期間中、大阪府市館に展示予定の「生きる心臓モデル」を中之島2Fに予定されているスペースにて、継承展示し、大阪府が目指す再生医療の未来を示すモニュメントとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎大阪万博のレガシー継承</li> <li>◎大阪府市館における展示やメッセージを中之島に移設することで、府民への理解促進を狙う</li> <li>◎さまざまなメディアに取り上げられるであろう、本プロジェクトの中之島移設により、話題拡大も狙う</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる心臓」移設</li> <li>・象徴的な展示によるレガシー継承</li> <li>・再生医療に関わる方々の意思が伝わる場所に</li> </ul>
構築ネットワークのレガシー継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎大阪府を中心とした患者会同士の横連携ネットワーク、患者会と研究者の直接パイプ、東京にいる医療専門メディアと各研究機関との取材ネットワークを以降も活用していく。</li> <li>◎中之島拠点の2F等に窓口設置することも検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎大阪府を再生医療の聖地として認知してもらうための活動やネットワークを継続・継承する</li> <li>◎患者団体等との接点作りを生かしたイベント等の自主運営につながる可能性</li> <li>◎再生医療学会との密な連携によるシンポジウム等の自主開催</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークのレガシー継承</li> <li>・中之島にネットワークの拠点設置</li> <li>・産官学+患者団体+メディアを加えた再生医療ネットワークの関西</li> </ul>
メディア有識者に向けた定期的な勉強会“未来医療研究会（仮称）”の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生医療をはじめとした未来医療に対する理解促進のため、メディア教育の場として、医療・科学に造詣の深い記者を対象とした勉強会を定期的に開催（年2回程度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎メディア有識者に対し情報提供及び意見交換の場を提供</li> <li>◎再生医療を中心とした未来医療への理解促進</li> <li>◎メディアの関心・興味を寄せるポイントの意見収集</li> <li>◎メディア有識者との関係構築を図るとともにメディアネットワーク構築</li> <li>◎継続した情報提供による記事化創出機会の最大化</li> </ul>	<p>&lt;2026年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再生医療の開発状況に合わせたテーマをキーオピニオンリーダーから解説</li> <li>・参加記者との意見交換</li> </ul>